

平成30年度福岡市水産業振興審議会 議事録要旨

- 1 開催日時 平成30年9月4日(火) 10:00～11:50
- 2 開催場所 福岡市鮮魚市場 市場会館2階 第1会議室
- 3 出席者 福岡市水産業振興審議会委員 15名(別紙委員名簿参照)
欠席 早淵委員, 波積委員, 村上委員, 池田委員, 小崎委員,
小林委員
市側 農林水産局長他 16名
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 (1) 審議会会長の選任について 資料1
(2) 福岡市水産業の現状と施策について 資料2
- 6 会議内容 開会宣言, 農林水産局長の挨拶, 委員紹介の後, 引き続き審議に入る。

【事務局】

お手元の資料1記載のとおり, 審議会規則第7条第1項に基づき, 会長を互選により選出することになっておりますので, ご選出をお願いします。

どなたかご意見はございませんか。

【委員】

会長は, 引き続き, 松山委員にお願いしてはいかがでしょうか。

【事務局】

ただ今, 松山委員との推薦があつていますが, 他にございませんでしょうか。

無いようでしたら, 松山委員に引き続き会長職をお願いしたいと思いますが, ご承認いただけますでしょうか。

【全員】

(拍手)

【事務局】

では, 委員の皆様の承認もいただきましたので, 松山委員, 会長を引き続きお願いします。

【会長】

はい, 承知しました。

【事務局】

それでは松山会長, 一言ご挨拶をお願いします。

【会長】

— 会長あいさつ(省略) —

【事務局】

ありがとうございました。次に、会長職務代理者の選任でございますが、審議会規則第7条3項により、会長からご指名をお願いします。

【会長】

福岡市漁協の代表理事組合長の末永委員に職務代理者をお願いしたいと思いますが、末永委員いかがでしょうか。

【委員】

はい、承知しました。よろしくをお願いします。

【全員】

(拍手)

【事務局】

それでは、末永委員に職務代理者をお願いしたいと思います。
これから先の進行につきましては、松山会長をお願いします。

【会長】

資料2について、事務局より説明をお願いします。

～事務局より、資料2について説明～

【会長】

説明ありがとうございました。

それでは、事務局からの説明を踏まえて、今後の福岡市の水産業の振興・発展のため、意見・提言・質問などがあればお願いします。

【委員】

資料17ページにある福岡市の年間一人当たりの食料支出額が上昇している要因として、19、20ページにある様々な取組が実を結んだことが挙げられると思う。支出額ベースでの把握はできているが、量ベースでの把握もできているか。若者の魚離れは歯止めがかかっているか。

【事務局】

量的な把握は難しさがあるが、物価指数の側面からの把握は行っている。魚介類の物価指数は福岡市が0.8ポイントの上昇であるのに対して、全国では5.3ポイントの上昇となっており、福岡市の量の増加はこの点に表れているかもしれない。資料17ページのとおり、29歳以下の魚介類支出額は全区分で一番低く、この点、歯止めがかかっているとは言いづらい状況である。

【委員】

困難かもしれないが、根本的な対策がなければ、水産業が無くなってしまう。

【事務局】

料理教室の開催を倍にするなどの策を講じている。受講者が成人した時に期待している。

【会長】

倍になったとのことだが、反応はどうか。

【事務局】

受講者の9割方よかったとの評価で、6割が魚食を増やしたいと聞いている。このほか、魚は思ったほど臭くないなど、関心が高い意見が多い。

【委員】

そのような報告が（資料上でも）あるといい。

【委員】

以前教員をしており、教員と話す機会がある。包丁を扱う授業は危険であり、漁協のサポートを経て行う授業はたいへんありがたい機会だと聞いている。魚の新鮮さなどもわかるようになる。婦人部だけでなく、小呂島から漁師が出向きブリを捌いたこともあり、生徒は若い漁師がいることに驚いていた。

【委員】

砂ゼロアサリは、高水温等の影響で大分へい死したとも聞いたが、商業ベースに向かう方向にある状況か。

【事務局】

ご指摘の通り、高水温等に加え、荒天で砂が巻き上がり、アサリが砂を噛むこともある。陸上、洋上、垂下式など試しているが、課題は多い。

【委員】

漁業を取り巻く環境は大変厳しいので、養殖で魚価を上げていくことは大事である。農業の話になるが、姉妹都市である広州市との連携がなされており、農村・農業の活性化が見たいということで、ベジフルスタジアム等を案内することになった。経済は産学官連携が進んでいる。近大マグロのように、農水も大学連携はできないのか、九大もあるではないか。

【事務局】

砂ゼロアサリをはじめとして、様々な取組について、福岡市漁協、博多湾環境保全計画の所管である環境局などの関係局と協議、連携していく。産学官連携は各方面の知恵をお借りして検討していきたい。

【会長】

九大は、水産に限らず色々な取組みがある。協議の場があるといい。

【委員】

予算確保から進めてほしい。また、植林もやっているが、山のミネラルを多く含んだ水が博多湾に流れる仕組みを作ってほしい。水道不安も大分解消されて

いると聞いている。

【事務局】

植林は大事な取組みである。先月、環境局や港湾空港局、道路下水道局、農林水産局を事務局とする博多湾環境保全計画推進委員会が開催され、ノリ、ワカメ養殖に携わる漁業者や松山会長にもご参加いただき、海水温等の環境状況、水産業振興など様々な視点から協議がなされている。本委員会等で関係者と連携しながら検討していきたい。

【委員】

32ページによれば、シロウオが大分減っているようだが、原因や見通しは。

【事務局】

シロウオの産卵には産卵基盤の整備をはじめとして、水温や流速、塩分濃度、底質粒度など様々な条件が必要と言われており、不漁の原因を特定することは困難である。今年は糸島市のシロウオ漁場でも不漁と聞いている。市では、福岡大学が室見川しろうお組合等と連携して行う「シロウオ産卵場プロジェクト」を支援しており、職員も本プロジェクトに参加している。

【会長】

大都市なのに、シロウオやカブトガニ獲れるのが福岡市の特徴である。今後も取組を進め、シロウオが獲れるような状況にして欲しい。

【委員】

新聞でもプラスチック製ストロー廃止が話題になっているが、39ページの新規事業「FUKUOKAおさかなレンジャー」について、具体的な内容を聞かせてほしい。

【事務局】

一般社団法人ふくおかFUNと共働し、「海底ごみの見える化」と「他団体との連携」を行っている。「海底ごみの見える化」では、漁業者へのヒアリングをもとに、博多湾に流入する河川の河口域などを調査・撮影し、現在、市民啓発用素材を集めている。「他団体の連携」では、他団体が実施する河川清掃や博多湾生物観察会などに参加し、海底ごみやリデュースの啓発を行っており、本日も小学校で実施しているところである。また、大人やこどもの幅広い世代に海底ごみ問題を身近な問題として捉えてもらうため、専門学校に「おさかなレンジャー」のキャラクター作成を依頼しており、11月の農水まつりで発表予定である。

【委員】

ラブアース等の環境イベントに参加して思うことだが、市民の海に関する環境意識は高まっており、機会を逃さず、施策をアピールしたり、情報発信してほしい。

【委員】

38ページの底質改善事業はたいへん有り難い。県漁連も水産海洋技術センターとともに取り組んでいる。成果を期待し、アサリの再生に夢を持っている。愛宕浜海浜公園にも微生物製剤を使い、実験中である。一方、今年の夏、シーサイドももち海浜公園に海水浴場に行ったが、海の色が汚く、臭いがした。福岡で自慢できる海水浴場と認識していたが、何等か改善してはどうか。

【会長】

所管は異なるだろうが、情報があるか。

【事務局】

ご指摘については港湾空港局に情報提供させていただく。

【委員】

生産者も減少しているが、寿司屋、古くからの料亭等も大変苦境にある。その盛り上げも大事。根本的には養殖しかないと考えている。大企業等も養殖開発に力を注いでいる。

もう一つは、水産加工業の振興である。福岡水産加工業協同組合が解散した。家庭で包丁を持つ機会が世帯縮小により減っている。草の根的な魚食普及の動きも大事だが、何らかの形で人が魚を食するという意味では、水産加工業の振興も大事である。なんらかの支援を検討されたい。

【事務局】

博多湾にあった養殖を探っていく必要がある。ワカメ、ノリ、カキ、アサリと行っているが、身近で従事しやすいこと等を念頭に次の品種も考えていきたい。コスト低減のための無給餌養殖、比較的水深が浅い博多湾ならではの養殖など、技術的な助言を関係機関に仰ぎながら検討していきたい。

福岡水産加工業協同組合の解散については、一報は入っている。加工業の振興はたいへん重要だと認識している。

【委員】

付加価値向上は大事である。県漁連も西浦に加工場があり、婦人部50人程度で運営している。県の魚を大事にするとの視点から、カワハギ、マダイ、ヤリイカなどを加工し、量販店や、レストラン、学校給食にも利用をはたらきかけている。県漁連も頑張っているのだから、市からも指導・支援をお願いする。

【事務局】

先日、県漁連の加工場を視察させていただいた。西浦はイカの生産が多いが、水揚げされたイカを瞬間冷凍し、鮮度の良い加工品を作られている。また、サワラの価格が上がっている背景には、漁業者がサワラを釣ってすぐに神経締めを行い、魚価向上のための取組みを徹底されている努力がある。特に、養殖業は収入向上のためには不可欠との方針から、唐泊では平成13年からカキ養殖に取

り組んでいる。姪浜ではノリ、志賀島、弘、箱崎ではワカメと、博多湾の環境を生かした養殖に取り組んでいる。アサリについては、今後、博多湾のシンボルとなるようさらに研究を進めていきたい。

なかなか、漁業生産を高める得策は見当たらないのが現状であるが、水産業総合計画では、豊かな里海づくりを施策の基本に掲げており、まずは、博多湾の環境づくりをしっかりとやっていきたい。新たに取り組む底質改善の成果が上げれば、そこで、稚魚が生まれ、育ち玄界灘に出ていく。地道にやっていきたい。今後とも、ご指導を賜って進めていきたい。

【会長】

アサリ養殖といえば、県でも手法が研究されている。ご意見を賜りたい。

【委員】

能古島等で立派なアサリが育っていたが、ヒトデの発生で大打撃を受けた。水をかき回し、土壌をきれいにするアサリが少ないことで、底質が悪い状況になっている。これに対して、室見川河口にはアサリ稚貝が多く存在しており、漁業者がこの稚貝を採れる漁場に移植放流することで漁獲もできるし底質も改善するという取組みが実を結んでいる。これに加え、漁場耕うん等を行うと効果的と考える。総合的にアサリを増やししながら、底質改善を行うことが理想と考える。

【会長】

先ほどから続く、養殖に関する質問は、博多湾では何をターゲットにどのような展開ができるかといった具体的な話を求めているのではないか。

【委員】

産学官が連携し、経済性の高い養殖業を立ち上げる場が必要と考える。

【委員】

26 ページで、「安全で使いやすい漁港づくり」とあるが、近年満潮時になると、接岸できない位、潮位が上がって、船を損傷することがある。今後、温暖化に伴い更に潮位が上がることが予想されるが、その対応策があれば聞かせてほしい。

【事務局】

私も他の現場を視察し、そういった状況があることを確認している。西風で特に船が巻き上がるなどの情報があれば提供してほしい。

【委員】

他県の漁港では、荷下ろしや荷積みがしやすいように岸壁の対応がしてあるのを見かけるので、福岡市も潮の干満に対応できる施設の検討をお願いする。

【事務局】

浮棧橋のことと思うが、市漁協本所等を通じ、対策の必要性の高い岸壁などの情報提供をお願いしたい。

【委員委員】

松浦では浮棧橋の再整備を3件完了し、4件目の予定があるのでご視察いただくといい。

【事務局】

参考とさせていただきたい。

【委員】

市場にも浮棧橋があるといい。

【委員】

漁師の高齢化が進んでおり、トロ箱を自分の身長より高い所に投げ込まないといけない状況は酷である。省力化の意味でも浮棧橋が必要と思う。

【委員】

福岡市は、外食率が高い。福岡の魚を使っているとアピールしている店も多いはずだが、資料上は読み取れない。福岡で漁獲された魚がどの程度、福岡の店で提供されているといった把握は可能なのか。

【事務局】

市漁協の水揚げで市場を通り、市内に回っている割合が50%弱という調べがある。福岡市の出している「F u k u o k a F a c t s」というデータベースであれば、人口10万人あたりの魚料理店が21大都市中1位といったデータはあるが、お尋ねの回答は持ち合わせていない。

【委員】

ふくおかさん家のうまかもん条例で認定された店舗が福岡のさかなを使っているということは確認しているか。

【事務局】

申請書に仕入れ先等の情報の記載があり確認している。

【委員】

件数の確認はできているか。

【事務局】

確認して回答したい。

(認定事業者373のうち、151事業者(40.5%)が提供・販売しているメニュー・品目に「水産物(明太子)」を含んでいる。以上、9/6回答済)

【会長】

他に意見が無いようなので進行を事務局にお返しする。

【事務局】

松山会長をはじめ委員の皆様大変お疲れさまでした。これもちまして、本会を閉会いたします。